

No.	事業名	担当課名	開始年度	方向性	総合評価	協働に対する総合評価の理由など
1	事業仕分け	行政経営課	H21	廃止	B	互いに問題意識を共有しながら取り組むことができた。しかし、事前～事後を含めたより対等な形での協働のあり方や職員の意識改革等、検討が必要な課題もあるため、事業仕分けは廃止とし、事業・業務の総点検へ転換する。
2	入札制度の適正化	契約課	-	継続	B	各委員会とは各評価項目に照らし合わせても良い評価を与えられるが、ホームページ掲載による市民への情報提供については関心を持ってもらうための工夫の余地があるため。
3	租税教室の開催(講師の派遣)	市民税課	H20	継続	B	お互いに、役割を分担しながら、可能な範囲で事業の実施を行えたと考える。
4	奈良市心のふるさと応援寄附促進事業	納税課	H20	継続	B	寄附目的やPRに沿った部署での活動が必要。
5	地域人権教育支援事業	人権政策課	S48	継続	B	事業計画に基づいた自主的な活動としているが、もう少し各事業について協議の場を持つようにすれば、より効果的な事業展開とすることが出来る。
6	開かれた市政	秘書課	H21	継続	C	協働の形態が情報提供のため、市民からの反応がないと評価が難しい。
7	まちかどトーク	広報広聴課	H18	継続	A	市民に市政への理解と関心を深めていただいたと思われるため。
8	「奈良しみんだより」の英訳	広報広聴課	-	継続	A	評価項目について、事業の目的を達成できているため。
9	パブリックコメント	広報広聴課	H17	継続	A	市が行う施策の策定において、市民からの積極的な意見や提言を受けることができたため。
10	タウンミーティング	地域活動推進課	H18	継続	A	市と自治連合会が協働して開催でき、参加者も前年度を上回った。
11	まちづくり振興事業「月ヶ瀬地域振興協議会」	月ヶ瀬行政センター地域振興課	H17	継続	B	活動団体と行政が連携して事業を進めているが、活動団体の自主的な活動になるように改善していければ、よりよいまちづくりにつながると考えるため。
12	都祁まちづくり協議会事業	都祁行政センター地域振興課	H17	継続	B	活動団体の自主性は乏しかったが、年次目標も達成され、都祁地域の活性化につながった。
13	奈良市市民公益活動推進会議	協働推進課	H20	継続	A	行政としては、市民目線での意見を聴取することができた。また、お互いに目的を共有することが出来た。
14	協働のための研修	協働推進課	H20	継続	E	研修の中で協働の事例を紹介することはあったが、実際に市民等と協働で研修の実施をすることはできなかったため。
15	市民政策アドバイザー制度	協働推進課	H18	廃止	-	市民目線による提言をたくさん頂き、レポート集を作成するなど一定の成果はあったものの、具体的な施策につなげるには困難な面があるため、今後は市民政策アドバイザー制度を廃止するという方針決定を行った。
16	奈良のむかし話を伝承する事業	学校教育課	H20	完了	B	専門的な技能を有するボランティアとの協働で、紙芝居の作成、実演ができ、計画の目的が達成された。実演については、今後も協力関係を継続していくことが望ましい。
17	もてなしのまちづくりの推進	協働推進課	H19	継続	E	平成22年9月より推進団体の募集を始めたが、応募がなく、実際に団体と協働するには至っていない。
18	自治連合会等活動推進	地域活動推進課 他	-	継続	B	地域コミュニティの再生には努力されてるが、個々の活動内容についてももう少し協議を持つことができればよいと考えるため。
19	地域要望を聞く会	地域活動推進課	H18	継続	A	地域要望を聞く会を開催し、市長以下市の幹部が地域の声を直接聞いた。
20	「戸籍事務の電算化に伴う市民への周知」事業	市民課 他	H23	廃止	-	しみんだよりやホームページで掲載することで十分周知できるものと考え、公募による市民と協働事業は行わないこととした。
21	市民考古サポーター活動事業	埋蔵文化財調査センター	H21	継続	B	現在実施している活動の自主性と内容向上を図るため、相互協議を進めながら展開していく必要があると考えるため。
22	奈良市文化振興計画	文化振興課	H19	継続	A	委員に出席いただき、ご意見を頂戴し、文化施策に反映することがこの委員会の趣旨であるため。
23	ならまちわらべうたフェスタ	文化振興課	H5	継続	A	手作りのイベントとして、地域の各団体の特性を生かして取りみ互いの立場や特性を相互に理解しそれぞれの役割果たすことができた。
24	生涯学習センター・各公民館における主催事業の協働	地域教育課	H13	継続	B	多様な相手との協働事業を目標値以上に実施し、目的を共有し、特性に応じた役割分担により豊かな事業展開ができたが、計画段階からの協議や評価の共有等に課題が残るため。
25	公民館運営審議会	地域教育課	S26	継続	A	行政主導の審議会としての側面があるが、今後はより一層委員の意見を取り入れていくことも検討する。
26	おはなし会	西部図書館	H20	継続	C	おはなし会との協働はうまく実施できているが、実施値の達成は難しい。
27	学校支援地域本部事業	地域教育課	H20	拡大	B	事業計画に沿った学校支援活動が展開され、地域全体で子どもを守り育てる体制づくりが進んだと考えるため。
28	中学校給食弁当導入	保健給食課	H20	継続	B	配膳ボランティアの協力で、弁当選択制の実施ができたので。
29	学校規模適正化推進協議会との協働事業	教育政策課	H20	継続	C	学校規模適正化の協議は住民等の反対から始まるケースが多く、適正化の意義に理解を得るまでは協働という意識が育ちにくい。
30	教職員教科研修事業	教育支援課	-	継続	A	活動団体と事前打合せを密に行い、ねらいに沿った教職員研修を開催することができた。
31	子ども居場所づくり推進事業	地域教育課	H14	継続	B	事業実施団体による主体的な活動が行われているが、事業の啓発をもう少し充実させることで、より協力者の拡大につながると考えるため。
32	放課後子ども教室推進事業	地域教育課	H19	拡大	B	地域の実状に合わせて子ども活動が展開されているが、事業の啓発をもう少し充実させることで、より協力者の拡大につながると考えるため。
33	黒髪山キャンプフィールド管理運営	地域教育課	H12	継続	B	指定管理者との連携を密に取りながら、施設の設置目的の達成に向け協働できた。
34	地域福祉活動の支援事業	福祉政策課	H16	継続	A	協働により、住民自ら地区の福祉課題に目を向けることが出来るようになり、住民主体の地域福祉活動を生み出すことにつながった。

No.	事業名	担当課名	開始年度	方向性	総合評価	協働に対する総合評価の理由など
35	めざせ地域デビュー	長寿福祉課	H21	廃止	D	開催曜日を変更して申込者増を図ったが、さらに申込者増につながる方策をもう少し協議することができれば、シニア世代の地域で活躍できるきっかけづくり及び人材育成を図ることができるため、廃止とする。
36	認知症サポーター養成講座	介護福祉課	H20	継続	B	キャラバン・メイトと概ね同じ目的意識をもって協働することができた。
37	視覚障がい者向け広報等発行事業	障がい福祉課	S57	継続	B	互いの役割分担は十分行えている。この事業の根本である市広報誌作成の段階から協議等をする体制が出来れば、よりよい物を視覚障がい者に提供出来ると思う。
38	奈良市食育推進会議	保健総務課	H20	継続	B	互いの特性を生かした取組みができたと思われるが、協働相手の負担が大きい部分があったため。
39	20日ならウォーク	健康増進課	H18	継続	A	意見交換を重ねながら事業のプロセスや結果、課題を共有し、互いの役割や活動意義を理解して取り組めているため。
40	食生活改善地区組織活動推進事業	健康増進課	H5	継続	B	協議会との協働活動と意見交換を重ねることにより、互いの役割や活動意義を理解して取り組めているが、一部協議会会員の中には理解の不十分さと市民への活動PRが若干不足しているため。
41	医療相談事業「春うらら会～神経難病患者・家族の集い」	保健予防課	H16	継続	A	うらら会の方向性をボランティア、患者、家族と常時協議しながら運営することができたため。
42	人と動物がともに暮らせるまちづくり事業	生活衛生課	H15	継続	B	自治会を通じて事業を展開することで、町ぐるみで問題解決する意識付が図れた。一方、動物に対する個々の意識の違いが協働作業の妨げになっており、より創意工夫が求められている。
43	奈良市地球温暖化対策地域協議会	環境政策課	H21	継続	B	協働のあり方を模索している段階ではあるが、色々な取組みが一定の効果을あげているから。
44	市民啓発イベント事業「環境フェスティバル」	企画総務課	H6	継続	B	市が企画し、実施から市民等が関わる主催者と協働の相手という現在の関係上、なかなか関係性を確立できず、自立を促せないため。
45	クリーンセンター建設計画策定事業	施設課	H17	継続	B	クリーンセンターの建設という共通の目的に向かって、委員それぞれが意見を述べることで、有効な議論が展開された。
46	(仮称)「環境啓発活動サポーター」事業	産業廃棄物対策課	H22	廃止	—	計画当初は実施の予定であったが、各所管において既存の市民団体等が同種の活動を行っていることから本計画は廃止とし、今後は同種の計画等への合流等により市民の環境意識の向上を図っていく。
47	アダプトプログラム推進事業「さわやかクリーン奈良」	協働推進課	H20	継続	B	活動団体には自主的な活動をお願いしているが、個々の活動内容についてももう少し協議を持つことができれば、よりよいまちづくりにつながると考えるため。
48	佐保川清掃	まち美化推進課	—	継続	A	佐保川の環境維持並びに、市民に自然を大切にすることの周知を図る活動であるため。
49	都市計画道路整備事業(三条線)	街路課	H8	継続	B	良好な歩行者空間を整備するという目標に対して市・協議会とも十分検討協議し景観施設等の意匠について決定できた。
50	(仮称)放置自転車ゼロ商店街計画	交通政策課	H23	—	—	平成23年度開始事業の為、平成22年度の事業評価はなし。
51	まちかど景観発掘隊	景観課	H22	継続	A	協働で開催することにより、新たな街かど景観の発掘し、今後のまちづくりに生かせると考えたため。
52	違反広告物を出さない街づくり推進団体	景観課	H16	継続	B	各団体の自立化はできているが、団体毎に温度差があるため、意識を高めることにより、より良い景観が維持できるため。
53	グリーンサポート制度	公園緑地課	H20	拡大	B	参加団体が毎年増加し、市民に協働の輪が広がっているため。
54	住まいの耐震化のすすめ	建築指導課	H22	継続	—	平成22年度は後援依頼がなかったため実施せず。
55	自主防災防犯組織活動交付金	市民安全課	H18	継続	B	防災防犯意識は高まったと実感しているが、各地区での参加型の自主防災防犯活動がより多く実施できれば、さらなる防災防犯意識の向上につながると考えるため。
56	消防団協力事業所表示制度	総務課	H25	継続	C	当制度導入にあたり、消防団活性化等検討委員会から提案を受け、制度設計に役立てることができたが、制度づくりの事務整理は行政が単独で行った。
57	独り暮らし高齢者世帯防火訪問	予防課	S46	継続	B	実施していただいたクラブは防火意識の充実強化を図ることができと思われるが、クラブが未結成の地域もあり市内全域に活動が及んでいない。
58	幼年消防クラブの育成及び活動	予防課	S62	継続	B	新たに2クラブを結成し幼年消防クラブの活動を広げることができたが、施設見学等にあつては一部の園にとどまった。
59	災害支援事業	消防課	—	廃止	—	すでに市民安全課において企業等と災害時協定を締結されていることや、消防総務課が所管している消防団事業とも関連することから、それらの課との協力支援によって目的を遂行できると考えるため、当事業は廃止とする。
60	「119番の正しいかけ方」指導	指令課	H22	廃止	B	参加者の理解は得ることができたが、市民全体の理解を得るためには事業計画の見直しが必要である。
61	応急手当普及啓発活動事業	救急課	H6	継続	B	講習会受講者より講習内容は高評価であった。応急手当の必要性の理解を得られた。
62	地域防犯活動推進事業	市民安全課	H17/H21	継続	B	活動団体には自主的な活動をお願いしているが、個々の活動内容についてももう少し協議を持つことができればよりよいまちづくりになると考えたため。
63	「柳生」観光まちづくり事業	観光振興課	H20	廃止	C	協働相手の長所や自主性をうまく導き出すことができなかったため、廃止とする。
64	山の辺の道・奈良道の活性化事業	観光振興課	H21	継続	A	守る会の自主性を尊重したうえで、それぞれの役割を分担し、年度内の目標を達成することができた。
65	なら燈花会開催事業	観光振興課	H11	縮小	B	観光閑散期の奈良の夏に多くの観光客を呼び込むため始ったが、ボランティアの協力なくしては立ち行かなくなるイベントであり、今後も協働し観光振興、地域振興につながると考えるため。
66	観光情報発信力研修	人事課	H20	縮小	B	研修内容については協働相手と一緒に考えることができたが、評価や改善については十分に行えなかった。
67	月ヶ瀬梅林周遊道路整備	道路建設課	H17	継続	C	用地交渉にかなり時間を要した。
68	奈良工芸フェスティバル	商工労政課	H1	継続	B	企画立案については奈良工芸フェスティバル実行委員会の自立性を尊重しながらも、市が広報等をアシストするという形で協働することができた。